

建設線の經濟的合理化

鐵道省建設局長 池田嘉六

最近建設線の重要な問題は從來の建設規程を一層經濟的に合理化した事である。

今まで施行されてゐた全國の建設線は大正六年前に計上された豫算に依つてゐたもので今日の經濟情勢から見ると地方によつては適應しない處もあり、豫算を改訂する必要を生じ、種々調査研究の結果其改訂案を昨年冬の第六十四議會に提出して、決定されたのが別表に示す様なものである。

此の表に示す各線の種別の中に簡易線と言ふのが澤山にある、之は從來の建設規程によれば、甲、乙、丙の三種であつたのを、今回丙に準ずる線として新に設けたのである。

甲と言ふのは日本の鐵道の幹線をなすもので東海道本線とか、山陽本線とか、東北本線などで全部竣工してゐるが、乙と言ふのは幹線に類する北陸線とか富山線の如きもので、工事中のものや、此から工事をするものなども大分ある。丙と言ふのは地方の局部的の線で建設線の大部分を占めてゐたものである。其丙に含まれてゐたものの内から研究の結果相當なる線を現實に即する様に一層經濟的合理化したのが今回の此の簡易線と稱するものである。

鐵道を普及するには建設費を安くしなければならぬと言ふ理由で、技術的にも充分調査研究して、運輸規程も改正し、機關車や列車も簡易化する事とし、現在の建設豫定線は全體の九分通りが簡易線となつたわけである。

×

建設線の合理化と言ふ事は以前からも考へられてゐた事で、先年八田氏が建設局長時代に例の甲乙丙の三等級の建設規程を設けられたのも其意味であつたが、今回は之を尙ほ一層合理的なものとしたのである。

三土鐵相の方針は建設線の經濟的合理化を實現する爲には、限られたる豫算を方々に撒布したのでは能率があがらぬと云ふ意味で、運輸計畫上に有利な二十五線を繰上げて之を促進する事となつた。それで土讃線とか三吳線とか軍事上にも運輸上にも必要なものは後年度分を特に繰上げたのである。

而して從來の豫算額の中で不足するものは補ひ、餘分のあるものは削ると言ふ様にして全然其豫算を組かへたのである。

何故かく變更するかと言ふに、從來の豫算は概略の豫算にすぎないもので、其後の地方的事情に適應する爲には、停車場の數を増さねばならぬ線もあり、或は線路の位置を多少變更しなければならぬ處もあり、又物價の變動なども著しいものがあるので、何うしても豫算を組換へねばならぬ様になつたのである。

斯くして從來の建設規程の甲乙丙の次に簡易線と言ふ經濟的な新規程を設け、之が爲に技術的には停車場の有効長を短縮するとか、線路の勾配も多少急にするとかして、簡易線には簡易線丈の工事の簡易化を以て、一軒に付き約七、八千圓の建設費を省く事となつた。而して表に示す通り昭和八年から同十六年までの決定線が七十三線で、此總延長約三千軒、建設費豫算三億五百萬圓となつた。つまり一軒當り約十萬圓となるわけである。

それから建設線に附隨して最近の重要な一現象と認むべきは、省營乗合自動車の發達である。

それは今回の建設線豫算改訂の中には從來の未着手線で中止になつたものもある。此は其地方の經濟情勢から見て鐵道を建設するのは簡單であるから、鐵道は一時見合せて、建設線に先行の意味で省營バスを新設する事と

